

# 唾液でHIV検出

鹿児島大発  
ベンチャー  
初期段階で発見

鹿児島大学発のベンチャー企業、ステイクスバイオテック（鹿児島市、隅田泰生社長）は唾液からエイズウイルス（HIV）を検出する手法を開発した。唾液10<sup>ミクロリットル</sup>にウイルス1粒子という低濃度でも検知できるため、ごく少量で初期感染を発見できる。今後、鹿児島大学病院などと実証実験を行い、新たな診断法として来年度の実用化を目指す。

ヒト細胞の表面は糖がつながった糖鎖で覆われ

HIVは血液中の抗体

ている。ウイルスはこの糖鎖に吸着し、細胞内に入り込む。同社はHIVと結合性の強い糖鎖を20ナノメートルの粒子に固定化した糖鎖固定化金ナノ粒子（SGNP）を開発。これを唾液と混合した後、独自開発した遠心分離機で吸着したSGNPを濃縮、分離する。検査結果は最速30分程度で判明するといふ。検査費用は1検体当たり3千〜5千円を予想している。

検査で確認するため、これまででは感染してから3カ月程度たないと分からないことが多かった。同社の方式なら、ごく初期で判明するうえ、唾液を採取すれば済むため痛

みもなく、患者の検査への抵抗感を低減することが期待できる。

ステイクスバイオテックは鹿児島大学大学院教授の隅田社長が2006年に設立した。独自開発した金ナノ粒子を使ったたんばく質の解析などを手掛けており、09年にはインフルエンザウイルスを超高感度で検出する手法を開発している。

日本経済新聞